

スリル満喫 ロデオ人生

暴れ牛を乗りこなすロデオに魅了された函館市出身の男性が、北米のプロ競技会に挑戦を続けている。「緊張感とスリルが何物にも代え難い」と遠征して6年目の昨年、全米プロロデオ協会から、日本人では異例のプロと認められた。今季も8月下旬に渡米する。



芝原仁一郎さん

東京都台東区に住む芝原仁一郎さん(38)。横浜商科大在学中に雑誌でカウボーイに興味を持ち、あこがれた。自動車メーカー子会社

米ワイオミング州で開催された大会で奮闘する芝原さん―昨年9月(芝原さん提供)

出身函館 芝原さん 米で奮闘、プロに昇格

に就職したが、夢をあきらめられず2年で退職。1995年にワーキングホリデービザでカナダへ渡り、牧場で働きながらロデオ学校に通った。「馬に乗った経験がなく道具もない、英語も話せない。先年も驚いていた」と

羨しそうに振り返る。翌年から、東京でアルバイトをして資金のため、夏になるとカナダと米国で集中的に行われるアマチュア大会に出場。2003年にカナダの大会で初優勝すると、難易度の高いプロの戦いに飛び込んだ。

数種類あるロデオ競技で、専門は牛を8秒間乗りこなしてハラン

スを競うフルライティング。左手のロープ一本で牛を操る激しい種目だ。牛の頭に強打されて顔を5力所骨折したこともある。昨年、プロ大会で初めて8秒間乗り切った時は「やっちゃった、という何とも言えない気持ちだった」と言う。残念ながらプロ大会の優勝はまだないが、昨季は準優勝も含めて獲得賞金が年間10000ドルを突破。同協会が認めるプロの仲間入りを果たした。今季の目標は賞金25000ドル。米国でも、賞金で生活できるのは「運りという厳しい世界。東京のアルバイトで生計を立てながら」納得できる結果を出すまではやめられない」と、芝原さんの挑戦は続く。